

令和2年度決算状況について

令和2（2020）年度 損益計算書

科 目	a	b	c		d
	決算額 (百万円)	予算額 (百万円)	対予算比較 (a-b)		増減率 (%)
			差引増減 (百万円)		
1 営業収益	14526	13793	733		5.3
2 医業収益	12066	12736	▲670		▲5.3
3 入院収益	7933	8490	▲557		▲6.6
4 外来収益	3825	3884	▲59		▲1.5
5 その他医業収益	309	362	▲53		▲14.6
6 補助金等収益	1430	30	1400		4666.7
7 その他営業収益	1030	1027	3		0.3
8 営業費用	13700	13841	▲142		▲1.0
9 給与費	7104	7054	50		0.7
10 材料費	3279	3480	▲201		▲5.8
11 経費	1900	1866	35		1.9
12 減価償却費	1398	1405	▲7		▲0.5
13 研究研修費	18	37	▲19		▲51.4
14 営業損益	826	▲49	875		-
15 営業外収益	194	208	▲13		▲6.3
16 営業外費用	657	662	▲5		▲0.8
17 経常損益	363	▲503	866		-
18 臨時利益	0	0	0		0
19 臨時損失	529	7	522		7457.1
20 当期純損益	▲166	▲510	344		-

1 収支について

令和2年度の収支については、移転後の減価償却費の影響により、5億10百万円の赤字を見込んでいたが、決算は1億66百万円の赤字となった。赤字の大半を占める臨時損失については、旧病院跡地の減損処理を行ったことによるものであり、5億20百万円を計上している。臨時損益を除く経常損益は、3億63百万円の黒字決算となっており、予算額を8億66百万円上回った。営業収益では、対予算で7億33百万円の増収となっており、そのうち、入院収益で5億57百万円、外来収益で59百万円の減収となっている。減収の要因は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、患者数が大幅に減少したためであるが、施設基準の新たな取得、平均在院日数の短縮、新規入院患者数及び手術件数の確保などの取組を推進し、医業収益の減収幅を最小限に抑えた。営業費用では、1億42百万円の減少となっており、そのうち、材料費が2億1百万円の減少となった。材料費減少の主な理由は、患者数減と納入業者との価格交渉によるものである。なお、経常収支比率は102.5%、医業収支比率は88.1%となった。

2 資金

期末における現金残高は6億2百万円となった。期首の現金残高は69百万円であったため、5億51百万円増加したが、吹田市から4億円借り入れを行っていたため実質的な資金は1億51百万円増加した。